学校番号	3025

令和８年度　国語科

教科	国語科	科目	論理国語	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	「探求　論理国語」　（桐原書店）						
副教材等	「読解を深める　現代文単語評論・小説」（桐原書店） 「大学入試国語頻出問題１２００」（いいずな書店） 「アシスト」（啓隆社） 「大学入試共通テスト演習現代文」（いいずな書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・語彙を豊かにすることは、社会の中で物事を認識し、理解するために必須の要件です。文章を的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を育成することを目指します。
・社会にあふれる情報を的確に取捨選択し、根拠をもって、自分の考えをきちんと伝えることができる論理的な思考と表現を学んでください。
・論理的な文章を構造的な視点から理解し、正しい理解と、汎用性のある知識を得て、教養を高めてください。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】
・言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
1	・評論の基本的な読み方を習得する。 ［教材］ 「オブジェとイマージュ」高階秀爾	a：具体的な導入から、一般化へと進む論理文の構造理解を行う。 b［ 読 ］：評論という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を正確に把握している。 c：本文の内容を踏まえて「共感」という感情の意義について話し合い、自分の考えを深めるとともに話し合いを経て考えたことを的確にまとめようとしている。	・小テスト ・定期テスト	・ノート ・ワークシート ・定期テスト	・ワークシート ・振り返りシート
	作者の感性から論理的理解への展開を、読解を通して理解力と分析力を養う。 ［教材］ 「権力にまつわる『秘密』」萱野稔人 「足跡」原研哉	a：効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深め、積極的に活用している。 b［ 読 ］：日常にある題材にある仕組みを理解し、それをもとに、書き手の立場やものの見方を考えながら、内容の解釈を多角的に深めている。 c：本文の内容を踏まえて「何気なく使っている物事」について話し合い、自分の考えを深めるとともに話し合いを経て考えたことを的確にまとめようとしている。	・小テスト ・定期テスト	・ノート ・ワークシート ・定期テスト	・振り返りシート ・行動の観察
	話題、論旨の展開を把握し、筆者の主要な見解をつかむ。 ［教材］〈評論解析 A〉 「市民社会化する家族」今村仁司	a：文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について十分に理解し、工夫を凝らして活用している。 b［ 読 ］：内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を正確に把握している。 c：本文内容の正しい理解を踏まえて、科学とはどのようなものか、筆者の主要な見解をわかりやすく丁寧にまとめようとしている。	・小テスト ・定期テスト	・ノート ・ワークシート ・定期テスト	・レポート ・ワークシート
	二項対立の構造を理解し、自己認識や他者との関係性を理解する。 ［教材］ 「身体と出現」平野啓一郎	a：言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを十分に理解し、その知識を活用している。 b［ 読 ］：内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を正確に把握している。 c：本文の内容を踏まえて「自己と」について話し合い、自分の考えを深めるとともに、話し合いを経て考えたことを的確にまとめようとしている。	・小テスト ・定期テスト	・ノート ・ワークシート ・定期テスト	・振り返りシート ・行動の観察
	身近なものを通して言葉の特徴と力を理解する。 ［教材］ 「言葉の〈意味〉と〈表徴〉」中村雄二郎	a：文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について十分に理解し、工夫を凝らして活用している。 b［ 読 ］：書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を多角的に深めている。 c：本文内容の正しい理解を踏まえて、つうの台詞に込められた思いや意志についての自分の解釈を、わかりやすく丁寧にまとめようとしている。	・小テスト ・定期テスト	・ノート ・ワークシート ・定期テスト	・ワークシート ・振り返りシート
	知識を踏まえ、美意識を理解する。	a：主張とその前提など知識と感性との分析をすることで、作者主張の理解する。	・小テスト ・定期テスト	・ノート ・ワークシート ・定期テスト	・ワークシート ・振り返りシート

2	［教材］ 「霧の風景」桑子敏雄	b［ 読 ］:主張を支える根拠や結論を導く論拠を検討し、内容を正しく解釈し、考察している。 c:本文内容の正しい理解を踏まえて、日本文や地域の共同体の同質性と差異性についての考察している。			
	自身と社会との関係を理解、思考の発展を図る。 ［教材］ 「『貫之は下手な歌よみ』か？」鈴木宏子	a:文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について十分に理解し、工夫を凝らして活用している。 b［ 読 ］:主張の論拠を正しくとらえ、内容を正しく解釈し、考察している。 c:本文内容の正しい理解を踏まえて、現代のおける問題と展望についての考察をしている。	・・小テスト ・定期テスト・ノート	・ワークシート	・レポート
	文化的相違及び人が持つ認識について理解する。評論の基本的な読み方と抽象的概念の理解を習得する。 ［教材］ 「ファンタジー・ワールドの誕生」今福龍太	a:文化的相違と人が持つ認識を理解し、文章構造と概念を習得する。 b［ 読 ］:主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して、内容を正しく解釈し、考察している。 c:「ものとこと」という概念をふまえ、日本の文化や感性を考察し、表現している。	・小テスト ・定期テスト	・ノート ・ワークシート ・定期テスト	・ワークシート ・振り返りシート
	近代から現代にかけての社会の変化を正しく理解し、考察を深める。 ［教材］ 「ポストモダンと排除社会」東浩紀	a:近代から現代にかけての社会の変化を十分に理解する。 b［ 読 ］:主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して、内容を正しく解釈し、考察している。 c:本文の内容を踏まえて「欲望などの心理的な働き」について話し合い、自分の考えを深めるとともに、話し合いを経て考えたことを的確にまとめようとしている。	・小テスト ・定期テスト	・ノート ・ワークシート ・定期テスト	・ワークシート ・振り返りシート
3	演習を通して、学力の安定と研鑽をはかる。 ［教材］ 「大学入試国語頻出問題1200」(いいずな書店) 「大学入試共通テスト演習現代文」(いいずな書店)	a:問題文という限定的な量の中で的確に内容の理解を行う。 b［ 読 ］:内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を正確に把握している。 c問題文を正しく理解し、問われることを理解して答えを導く。	・小テスト	・ワークシート	・ワークシート ・振り返りシート
	プレゼンテーションソフトの活用して印象に残る発表を目指す。 ［教材］ 「プレゼンテーションソフトを活用して発表する」	a:プレゼンの準備としてテーマについて深く調べる。 b［ 読 ］:主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、根拠の妥当性や信頼性を吟味して、内容を正しく解釈し、考察している。 c:わかりやすく丁寧に発表をまとめようとしている。	・発表	・発表	・発表 ・振り返りシート

	実際に小論文を書くことを通して、読み手を踏まえた、効果的な文章を書く。 小論文を書く	a:文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について十分に理解し、工夫を凝らして活用している。 b[思考]テーマや資料に対して、正しく理解して、構成や内容等を考える。 c:読み手の立場や印象を考慮しながら、自身の考えを正しく、効果的に伝えている。	・レポート	・ワークシート	・レポート

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準ｂ[　]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　３０　）時間

・書くこと　…　（　３０　）時間

・読むこと　…　（　４５　）時間